

『時事直言』 No.1405 2020年7月6日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] t_masuda2019/

[instagram] t_masuda2019/

[mail] info@chokugen.com

[twitter 英語] T_Masuda_eng/

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

国破れて山河あり

第二次大戦敗戦後 1945年から1951年9月8日のサンフランシスコ講和条約まで日本の主権はGHQ(連合軍最高司令官総司令部)にあり、総司令官マッカーサー(連合軍最高司令官)が日本の最高指導者となり日本の民主化が推進された。

日本の民主化とは事実上アメリカ化以外の何物でもなかった。

終戦直後日本の食糧難を理由にマッカーサーは小学校に給食制度を導入、パンと牛乳を生徒の常食にし、食料が十分足りている今日でも続いている。

結果、日本の主食は自給出来る米でなくアメリカから輸入する小麦粉に依存することになった。

講和条約と同時に日米安全保障条約が締結され、在日占領軍(米軍)の名前が在日駐留軍に変わっただけで、米軍は今なお日本の行政管内の軍事行動の自由が保障されているから対日占領軍であることに変わりはない。

1960-70年代にかけて日本経済は、朝鮮戦争特需を梃に奇跡の急成長を遂げ瞬く間に世界最大の債権国になり外貨準備も増大したが、アメリカとの合意で外貨準備を金(ゴールド)に交換することが出来ず、外貨準備はいまだに全て米ドル資産に限定されている。

日本の経済政策は戦後一貫してアメリカから提出される年次改革要望書に従ってきたが、2009年鳩山内閣によって対米従属の代表として廃止されたが、2016年3月安倍内閣はアベノミクス経済成長の為という理由で日米経済協議として復活した。

日本は今なお主食、安全保障、経済政策に至るまでアメリカに従属していることが分かる。

日本はサンフランシスコ講和条約をもって独立国になったと義務教育の教科書で教えているのは戦後のGHQ民生局のプロパガンダが今なお踏襲されていることを物語っている。

政治・経済の良し悪しは「国民の幸せ」次第であるなら今日日本人は幸せだろうか。資本主義社会で幸せになるには先ず「裕福」でなくてはならない。

日本人はGDPの400%もの現金と金融資産を持つ富裕層世界最高である。

過激なデモや暴動もなく、国際戦争に巻き込まれることなく平和が続いている。

海外からの観光客約4,000万人の日本の感想は異口同音「神の国」。

神の国に住む日本人は国際的に見て幸せではないのか。

日本はアメリカから主権を取り戻し、主食を米に戻し、憲法第9条改正で、自分の頭の上の蠅は自分で追い払えるようにし、外貨準備から金塊を買えるようにすると同時に経済政策もアメリカ従属から日本独自の政策に変更、、、等々で名実共に日本が独立国になると国民はどうなるのだろうか。

実は誰もどうすることが出来ない事態が今世界で起ころうとしている。

その結果、今でもそれなりに幸せなのに、日本が何もしないで更に世界一の幸せな国になれるとしたらどうだろうか。

「水が高いところから低いところへ流れる」のを誰も止めることは出来ない。

日本人は神から選ばれた民族であることを知る時が来たようである！